

T I C A D 9 テーマ別イベント 実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会

代表者 稲場雅紀（共同代表）

イベント名称	アフリカは援助削減による保健財政危機を乗り越え、持続可能で強靭な保健エコシステムを構築できるか？＝日本と「人新世の人間の安全保障」の役割＝
実施日	2025年8月21日
実施場所	パシフィコ横浜 展示ホールD (S-10会場)
実施概要 (100字以内)	米国トランプ政権の援助停止や主要ドナー国による援助削減により転機に立たされているアフリカの三大感染症対策や保健システム強化について、アフリカの市民社会や国際機関の立場から、現状を分析し、今後の方向性を探るイベントとして開催された。
実施内容	本イベントは、(特活)アフリカ日本協議会と、ケニアに本部があるアフリカの国際保健政策に取り組む市民社会団体「ワキ・ヘルス」(WACi Health)が共催した。アフリカでエイズ・結核・マラリア対策と保健システム強化に取り組む市民社会と国際機関が現状を分析し、今後に向けて提言するという内容であった。モデレーターはケニアでSDGsの実施に取り組むNGOネットワーク「SDGsケニア・フォーラム」のフローレンス・シェブオ・ムリ事務局長が務めた。冒頭、TICADへの提言に取り組むアフリカ市民社会のネットワークである「アフリカ市民協議会」(CCFA)のマウンゴ・ムーキ議長(ボツワナ)が開会挨拶、その後、セッション1では、三大感染症対策と保健システム強化の現状分析について、HIVについてはWACi Healthのフィツム・ラケウ・アフリカ連合リエゾン・マネジャー(エチオピア)、結核はルチカ・ディティウ・ストップ結核パートナーシップ事務局長、マラリアはオリヴィア・ンゲー「アフリカ健康インパクト」事務局長(カメルーン)が発言、その後、保健システム強化などについて世界エイズ・結核・マラリア対策基金(グローバルファンド)のダイアン・スチュワート・ドナー連携部長が登壇。次いでセッション2では、市民社会としての提言と日本政府との対話を行った。アフリカ市民社会からは再びフィツム氏が登壇、保健SDGs達成のための連携の方針文書である「ルサカ・アジェンダ」への市民社会の提言について紹介。その後、日本市民社会から稻場雅紀・アフリカ日本協議会共同代表が登壇、厚生労働省の国際保健分野を主導している江副聰・国際保健福祉交渉官と対談した。最後に質疑応答を行い、稻場代表が閉会スピーチを行った。
参加者数	50人
実施の効果など	TICAD9のテーマ別イベントでは多くの保健分野のイベントが行われたが、主に主催団体が実施している事業などを紹介するものが多く、三大感染症という課題について、アフリカの市民社会や、これに取り組む国際機関の意見を率直に提起するイベントは少なかった。アフリカの市民社会のオーナーシップを強調するイベントが開催できたことは意義があったものと考える。

※ 写真、報道記事等の資料を添付してください。

写真：以下、第1セッションで発言するオリヴィア・ングー「アフリカ保健インパクト」事務局長（カメルーン）。登壇者は左からフィツム・ラケウ・アレマイユ・WACI Health アフリカ連合リエゾン・マネジャー、ルチカ・ディティウ・ストップ結核パートナーシップ事務局長、ングー氏、ダイアン・スチュワート・グローバルファンド・ドナー渉外部長。

